

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501169		
法人名	社会福祉法人サンビジョン		
事業所名	グループホーム第2グレイスフル春日井		
所在地	愛知県春日井市牛山町3195-1		
自己評価作成日	平成23年2月17日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372501169&amp;SCD=320&amp;PCD=23">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372501169&amp;SCD=320&amp;PCD=23</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104 加福ビル左京山2F		
訪問調査日	平成23年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設建物の2階部分にあり、南向きの各居室から木製のベランダに出ることが出来る。1階ではグループホーム専用の畑で野菜を育て、収穫や草取り等作業を一緒に行うことで喜びや達成感を共有することが出来ている。また、買い物の他にも全員での外出や2ヶ月に1度の個別外出の機会を設け、活動に参加するという楽しみを持った生活が出来よう支援している。寒い時期や天気の悪い時など空き時間に、室内ではボーリングなどのゲームを一緒に行うなどの時間も設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本位の支援の提案・家族の介護の軽減等、利用者・家族に充分な説明を行い、話し合う中で、相互の信頼関係を築き上げ、利用者が事業所のシステムに満足できるように考え、さらに喜んでいただくように配慮する支援は、地域密着型サービス提供者の模範とも言える。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。事業所は地域に根差した活動に力を入れ、今後も介護という枠にとらわれない多岐にわたる活動を目指しており、ますますの支援努力をお願いし、取り組みの充実に期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関へ掲示を行ったり、朝の申し送り時に理念や心構えを唱和している。近所に散歩に出かけたり、小学校や幼稚園との交流等実践につなげている。	理念は廊下や事務所内に掲示し、職員全員が携帯している職員手帳にも記載しており常に認識し、理念に添ったケアの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創立際や納涼祭などの施設行事に地域住民の参加がある。散歩や買い物などの外出や「ぬくもりの集い」で地域との交流が持てるようにしているが、日常的には交流の場は少ない。	ホームが法人併設の建物内にあることで、1階のデイサービスや地域交流センターを活用し地域の方々と行事の参加や「ぬくもりの集い」等で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室での講師や行事を通して交流を持つ事で少しずつ理解をしていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、市役所職員、区長、地域包括支援センターご家族へ参加を呼びかけて開催をしている。提案を受けた事項をホームへ持ち帰り、検討し対応を行っている。	運営推進会議では活発な意見交換が行われており、そこで取り上げられた意見や要望について、職員間で把握しサービスに活かすことができるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請や変更届、制度が変化した時、入居者の状態が重度化した時など、随時報告・相談を行っている。運営推進会議にも参加してもらいアドバイスをいただいている。	市職員は運営推進会議に必ず参加し、ホームの日々の活動内容や、利用者の暮らしぶりを把握し適切なサービスを提供することができるように密接な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠せず、開放的な空間にし、身体拘束についての勉強会も開催し、理解に努めている。玄関に取り付けたセンサーを活用し安全面に配慮を行っている。	職員の見守りで利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチし、自由な暮らしを支援している。今年度の研修では、虐待、身体拘束に関わる研修に参加し、より知識を深め実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会やホーム内で高齢者虐待についての勉強会を開催し、理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で権利擁護について勉強会を開催した。勉強会での内容を日々の業務へ生かせるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書の説明を行い、同意をいただいている。疑問点には随時お答えし、契約解除時(退所)にもお話をする時間を設け納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情や相談窓口を説明し、面会時や運営推進会議の中で意見・要望を伺う機会を設けている。	ホームと家族が一体となり協力することで利用者のニーズの把握に努めている。また、家族から出た意見・要望は迅速に対応しており、利用者・家族の安心安全に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員で会議を開催し、情報の共有や問題点について話し合う場を設けている。	管理者・ハウスマネージャーは、職員からの意見や情報をしっかりと取り入れ一緒に考え、話し合いながら働く意欲の向上や質の確保につながる支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会の案内や研修への参加など職員がスキルアップできるような仕組みが作られている。資格取得に対しても受講費用や各種資格手当での支援もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修・勉強会など参加できるようにしている。資格取得(介護福祉士・介護支援専門員)に向けてのサポート体制も整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム(6箇所)と協力し、合同の勉強会、交換研修など交流が持てるようにしている。サービス向上のため毎月グループホーム部会を開催し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み担当者・ケアマネージャーから情報を収集し、困っている事や要望の把握に努めている。アセスメントや「つぶやき」に耳を傾けるようにし信頼を得る事ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み担当者・ケアマネージャーから情報を収集し、困っている事や要望の把握に努めている。面会時にはもちろんホーム便りなどで様子を報告し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には他職種や関係機関と相談を行い、他のサービス事業者からも情報を収集し必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースでの生活を基本として調理や洗濯など会話を楽しみながら一緒に行っている。状況に応じて個別に話を伺うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や新年会、施設行事などに参加をしていただけるよう声を掛けたり、病院受診などご家族にもケアに関わっていただけるようご理解をいただいている。面会時には昔の様子を伺うなど本人に合った支援ができるよう時間を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設けず、来設しやすい雰囲気作りに努めている。馴染みのある家具を持ち込んで頂く等、環境に配慮は行っているが、馴染みの場所の訪問はなかなか行えていない。	利用者一人一人の生活歴を把握し、家族との協力の下出来る限りの支援を行っている。年々意思表示が難しくなり、一時帰宅時の支援などでは家族が対応に苦慮するなどの課題もある。場所や時間に配慮して、少しでも関係継続が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格や個性を尊重し、利用者間の信頼関係が築けるようにしている。レクリエーションや一緒に食事を摂るなどし、お互いが理解し合えるために職員が間に入るよう努めている。また、気の合う関係で過ごせるよう工夫も設置している。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な情報提供やサポートを行い現状把握に努めている。併設施設に移動された際には利用者様と一緒に面会を行う事もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>おお</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やつづやきを集め意見や要望の把握に努めている。できる限りご本人の意向を尊重し、希望に添える暮らしができるよう努めている。	職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について関心をはらい把握しようとつとめている。アセスメント記録と日々の見守り、コミュニケーションを通して希望・意向を把握している。困難な場合身振り、表情及び選択方法を工夫した把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人のバックグラウンドの把握に心がけている。入居後にもご家族から話をお聞きし、情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居年数・心身状態に合わせて、現状把握に努めている。一日を一緒に過ごすことで個々の性格やリズムを把握し、情報交換や記録作成を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常からご本人の要望を伺ったり、面会時にご家族と相談を行っている。生活の中で問題が起こった時には毎月の会議の中で、話し合いを行っている。	利用者一人ひとりがより良く暮らすための現状に即した介護計画になるように利用者、ご家族からの思いや意見を反映させ取り組んでいる。	今後も多様化するであろう利用者・家族の希望・要望の把握に努めていただきたい。利用者のニーズや家族からの新たな要望も、新鮮な目で見えて確認し、支援を行っていくことを期待するところである。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員・計画作成担当者を中心に見直しを行っている。状態に変化が生じた場合には見直し期間前でも検討・作成を行い、ご家族へ報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様に合ったサービスや要望に添えるよう他部署・他職種との連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加をしたり、ボランティアの方々のご協力をいただき、ケアのお手伝いをさせていただいている。併設施設内の行事や職員との連携を図りケアの幅を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の内科医と精神科医との協力体制を図り、月1回の往診、必要時にはご家族に医院・総合病院への受診を行っていただいている。	毎月、提携医の往診を受けている。緊急時、急変時の対応もできおり利用者と家族の納得が与えられるよう早期発見、早期対応で安心と信頼をもって支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養併設であるため、必要時には特養の看護師へ連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には受け入れの病院への迅速な情報提供、関係機関への連絡が行えるように努めている。症状が重度化しないように健康状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族のご希望に出来る限り添えるように努めている。終末期にむけては、設備・知識・技術の整った機関と連携し、安心して過ごしていただけるようご家族へお伝えしている。	ホームとして出来ること、出来ないことを明確にし、利用者・家族と話し合いを重ねて支援を行っている。また、医療機関との協力関係の構築を行い、利用者・家族の不安を軽減することができるようにしている。	
34	う	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法や心肺蘇生方法を目につく場所に掲示し、落ち着いて適切な対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月行い利用者様にも参加していただいている。避難方法や避難経路、消火器の使い方の確認を行っている。施設全体で行う際には地域の方にも声をかけている。	ホーム内の避難訓練は利用と一諸に毎月実施している。また、スプリンクラーの設置等設備面充実しており、職員の防災に対する意識の高さがうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはノックをしたり、声かけが親しみから馴れ合いにならないように、また自尊心を傷つけないように注意している。	個性の違いを十分に認識して、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。個々人が反応しやすい呼称、声の大きさ、目線などに気をつけて、さりげないケアを心がけている。気づきは職員間で共有している。守秘義務は充分理解し、書類管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に問いかけるような話しかけや個別レクを行うなど、自己決定を行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間(食事・掃除)は決めているが、その他の時間・レクリエーションへの参加はご本人に決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択して更衣をしていただいている。自己選択が難しい方は一緒に選び、更衣・整容を行っていただいている。理美容についてもご家族へ連絡を行って、誕生日にはご本人の希望に添えるような小物をプレゼントしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、食材切りや盛り付け、洗い物など協力して行っている。使用した食器は個々で片づけを行っている。	職員と利用者が同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。また、ホームの畑で収穫した野菜をメニューに取り入れる等「食事」を楽しむことができるように支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量のチェック、記録を行い健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケア、週一回の義歯消毒、昼食後のうがいの声かけ等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の必要な方には失敗のないように声をかけ援助をしている。	利用者の体調やリズムを職員が把握し、羞恥心やプライバシーに配慮したさりげない声掛けで、トイレで排泄をすることができるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や乳製品・食物繊維の多い食事など工夫と運動を行っている。必要に応じて主治医と相談を行い、下剤の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて入浴していただいている。14時から18時までの入浴時間を設けて、順番に入浴していただいているが、時間帯や順序等については選択できるような支援がうまく行えていない。	利用者の希望にそっていつでも入浴でき職員の見守りで一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっている居室で好きな時間に休んでいただいている。就寝前には温かい飲み物を提供し、快眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、薬についての情報は個人ファイルに処方箋があり、確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や本人とのコミュニケーションから情報を探し出すようにし、散歩や買い物・個別レクなどを行っている。タバコや甘いものなど出来る限り支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会やホーム全体での外出・外食、食材購入などにも一緒に出かけている。また、数人で屋外へ散歩にも出かけている。	個別の外出、散歩、買い物、外食など一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。法人併設館内にはカフェがあり気分転換もしやすく、全員で遠出の外出にはボランティアの協力で安全に戸外に出かける等積極的に外出支援を実践している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には小額のお小遣いの管理をさせていただいている。基本的には職員管理だが、買い物に出かけた際に、支払いを本人が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人希望で対応している。手紙は年賀状をご家族へ出させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日ご利用者様と一緒に掃除を行い、清潔を保てるよう努めている。季節や時間に合わせた室温・光の調節、掲示物や花を飾るなど環境の整備に努めている。	生活感や季節感を取り入れた清潔保持の安心感のある場所になる工夫がされている。共用空間は利用者が安全に移動できる広さと手すりが確保され居間に大きな窓と広いベンダで明るい生活空間を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自由に過ごしていただけるようソファの長さを変えて設置、一人がけの椅子も用意し好きな場所で過ごしていただけるようにしている。一人ですごしたいときには居室で過ごしていただくこともできるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活必需品(家具・寝具・装飾品)はご自宅よりなじみの物をお持ちいただき、テレビも自由にご覧になれるなど、すぐしやすい環境に配慮を行っている。ご家族が装飾品を持ってきてくださるなどの協力もある。	自宅で使い慣れた寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ利用者が自由に居心地の良い生活ができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりを設置しバリアフリーにすることで、広く自由に動けるような設計になっている。トイレの場所の表示やカレンダーなども掲示している。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	ホームが法人併設の建物内にあることで、1階のデイサービスや地域交流センターを活用し地域の方々と行事の参加や「ぬくもりの集い」等で交流を図っている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議では活発な意見交換が行われており、そこで取り上げられた意見や要望について、職員間で把握しサービスに活かすことができるように努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市職員は運営推進会議に必ず参加し、ホームの日々の活動内容や、利用者の暮らしぶり等を把握し適切なサービスを提供することができるように密接な関係を構築している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	ホームと家族が一体となり協力することで利用者のニーズの把握に努めている。また、家族から出た意見・要望は迅速に対応しており、利用者・家族の安心安全に繋がっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者本位の支援の提案・家族の介護の軽減等、利用者・家族に十分な説明を行い、話し合う中で、相互の信頼関係を築き上げ、利用者が事業所のシステムに満足できるように考え、さらに喜んでいただくように配慮する支援は、地域密着型サービス提供者の模範とも言える。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。事業所は地域に根差した活動に力を入れ、今後も介護という枠にとらわれない多岐にわたる活動を目指しており、ますますの支援努力をお願いし、取り組みの充実に期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。